

波 紋

1988

11



交 差 点

白菊の値上りは困った事だ

急に寒くなりまして、カゼをひかれた方も多いと思います。先日、親類の葬式に出席しました。花屋さんが言うには「白菊が二割高になった。東京あたりで買い占めて、冷蔵倉庫に入れて値上げを待っている様子だ」とのことです。

又、自粛ムードで各地のお祭りが中止になり、借金に行き詰まって自殺した露天商夫婦も出たとか。天皇重体のニュースは、国民の大関心事であるに違いないが、マスコミ報道合戦に全国が巻き込まれ、国民の注意を天皇問題に過剰に集中させている、テレビ、ラジオ、新聞社の商売熱心も困った事です。個々の記者達の仕事に対する情熱と、善意は分るが、やり過ぎると、凶器に変身する。極端に表現するならば、ある種の恐怖を覚える人も出ているでしょう。

マスコミ各社も、この点を考慮してもらわないと困った事が次々出て来るような気がします。

森田 信之



とし君の一方通行

「沙音ちゃん」

アメリカへ、又行って参りました。

例によって日氏他大勢の方に大変お世話になりました。一日目にシアトルの市内をぐるぐる回りましたが、大きな市場に見学に行きました。牧野君は、「これが本当の市場調査だ」等という悪酔いするような冗談を言っています。日本と一緒に大変活気があり、魚屋さんも八百屋さんもこれまた日本と一緒に大きな声でガナッテいます。牧野君がどうしても蟹を食べたい等と我儘を言います。大変大きな蟹でうまそうですがホテルで食べるのもわずらわしいのでやめようと思っていましたら、日氏が私の家へ明日おいでと言ってくれました。申し訳ないと思いつつ好意に甘える事になりました。八百屋さんに変なおもしろい表現で、「We have Mat.t.ake」と表示してある白い松茸が有りましたので10本ばかり購入しました。それで日氏の奥さんが松茸ごはんに吸い物を作っていただけとか、話だけで感激であります。翌夕お伺いしましたが大変歓待をうけました。もちろん奥様の松茸ごはんとお吸い物はいただきましたし、蟹をむしゃぶりついたのは言うまでもありません。日家には、沙音ちゃんという三才位のとても可愛い女の子がいました。我々の到着するのを大変楽しみにしてくれましたよ、これまた感激です。日本人がなつかしいのかとても喜んでくれました。

沙音という名前は、シアトルを英語の発音でこのように感じる名であるそうです。とてもロマンチックです。まさかアメリカまで来て、松茸が食べれるとは思ってもよらず、

そして沙音ちゃんのような可愛い女の子に歓待をうけるとは……………。

あまり遅くまでお邪魔してはいけないと思いい退散する時、沙音ちゃんは、とても悲しそうな顔で見送ってくれました。もつと居て欲しかったというような顔をして……………。

何という表現をしていいか分かりませんが、胸がキューンとなるような気持ちになりました。ABCの歌を我々に歌ってくれた沙音ちゃん、又会えると思います。

『フォーシーズン』

光田 昭男

やるか・やらないか
したか・しないか
あるか・ないか

一人一人、生まれも違うし、育ちも違う。

同じ考え方になる訳がありません。

ですが、こんなに簡単なことが、何故わからないのか、教養が必要なことでもないことが判断力が悪い、悪いのではなく、ないのでしょうか。

1+2=3 なのです。

1も、2も、考えずに、3の答えを、出すから、間違いが起こってしまうのです私は、頭が悪く、教養がありません。ですから、いつも、1も、2も、考えるように心掛けています。

また、心掛けていなくても、無駄なことに悩み、体力が落ちた時に、判断が異なり、間違いが、起こりやすいのです。みなさんも、気を付けた方が良いでしょう。ぜんぜん考えてない人は、一度、考えてみて下さい。

森松(株)へ入社して

奥田 義春

早いもので、私が当社へ御世話になりました。前から、早くも一ヶ月有余が過ぎました。前の会社に、いる頃から、よく集荷に来ていて、感じた事ですが、この会社の人達は、明らかく、頭が低いという事を、痛切に思いました。その時はまだ、当社へ就職するという事は、思ってもみない事でした。他の会社へ、就職する事が、九分九厘まで決定していました。それで今迄に、御世話になった御得意様に、挨拶に廻っていて、次長の稲葉さんに、御会いした時に、未だその会社へ返事をしていないのなら、当社へ来ないかと、さそわれたのが、御縁となりました。(丁度その頃自分も、家庭の事情もあり、車を降りたいと、思っていた事もあり)入社して驚いた事は、皆様が、非常に若いという事(社長を始めとして)そして、バイタリティーというのでしようか、そういうものが強く感じられます。今は、毎日の様に何事かにつけて、皆さんの足を、引っぱっている様な事ばかりをして居りますが、一日も早く仕事を覚えて、と言いましても物忘れがひどい私の事ですからいつどの位の日々を要する事やら不安ですが、少しでも早く、皆さんの仕事ぶりに、近づいてゆける私になりたいと思つて居ります。

私の家族は、来年高校受験を、控へているというに、少しも、勉強もしないで遊んでばかりいるのんびりやの娘と二人家族です。この様な私ですが、皆様の御指導をよろしく御願ひ致します。

夏休み読書感想文

「こんな税金払えるか」

木頭信男著

稲葉 友昭

世田谷区の上馬に住む家族の話、一部上場会社に勤めるエリートサラリーマンの夫が交通事故で亡くなった。残された家族は妻と子供二人。その後、世田谷税務署より相続税の申告書がきた。遺産といっても、わずか六十坪の土地と家だけである。

税理士に相談したところ、一億二百万円の遺産を相続したことになり、税額はざっと八百万円であるという。この家族は、この相続税を払うために長年住み慣れた家と土地を処分したという。地価高騰のため評価額が上がり、このように相続税の支払に苦しむ人が増加の一端をたどっている。

しかし、一方では、現行税制には合法的に税金逃れをする抜け道がいっぱいあるという。それは土地がらみのものが多い。一つの土地に時価、公示価格、路線価、固定資産評価額と四種類もの値段がつけられるからである。著者は、地価暴騰の元凶は現行税制であり現行税制の改革なしに地価は抑えられないと四つの提案をしている。

東京の地価は、ニューヨークの五十倍であるという。東京に限らず、このままでは我々サラリーマンにとって、マイホームは夢の夢になってしまわないか。

一日も早く、地価抑制の税制改革を望みたい。

「こんな時 こんな知的 ことわざ」

西田 聖一

ことわざとか俳句と言うものは、聞く場所聞く年代に寄って異なると思う、全くもっておもしろい理点がある。基本的にわかっているつもりでも、その場面に直面しないと本当の意味はわからないものである。しかしながら、自分自身ことわざに関しても、すぐく無知な事を思い知った。というのも、「天災は忘れた頃にやってくる」と言うことわざを、「天才は忘れた頃にやってくる」と感違いしていたのである。まだ他にも、言うに言えない感違いがたくさんあった。今までの付けが回ってきた事を思い知らされた。

これからの時代は、こういう知的なことわざが必要不可欠になると予想される。

これからは、こう言うことわざに慣れるよう、努力してゆこうと思います。

この本の中で、自分が気に入ったことわざを2、3点ピックアップして見ました。

- 1、ならぬ堪忍 するが堪忍
- 2、親の意見と冷酒は 後ででき
- 3、少年老い易く、学成り難し

That all right

「トクする税金の知恵袋」を読んで

宝田 かおる

今まで税金には興味はなく、税金に関することは何も分からなくて、大げさに言えば税

金なんて私たちには全然関係のないことだと思っていました。でも少なくとも働き始めた今年からは、少しは考えなければいけないことなのかなと思います。本を読み終えた今でもはつきりいってよく分からないし、理解もできません。なんとなく分かることは、配偶者にパート収入がある場合、それが九十万を超えるると夫婦二人の合計ではかえって減収になるケースがあるということです。それは、年収九十万を超えることによって配偶者に所得税と住民税が課税され、さらに夫が配偶者控除を受けられなくなることによって夫の所得税と住民税も増加して、それらの税負担の増加が直接の減収の原因になっているようです。九十万円ラインがネックになっているようです。九十万と九十一万を比べてみても一萬ちがうだけで手取額では八五〇〇〇円の増収ですが、税金は四万八四〇〇増加、すなわち年収が減少するわけです。でも今年に入ってからその差が小さくなってきているそうなのでこれからどんどん変わっていくのではないかと思います。いずれにしてもこの問題は、私にはまだまだ関係のないことなので、あまり考える必要のないものだと思います。

この本には他に、マル優のこと、株のこと、確定申告、マイホームなどの税金のこと、保険金のこと、相続税のことなどいろいろ税金に関することが書かれてありました。今回は急いで読んだので、あまりよく分かりません。今後時間を見つけて一つ一つゆっくり読んで理解し、勉強していきたいと思えます。

今月の社内行事

十一月

三日 文化の日 休日

五日 業務連絡会議

十二日 第二土曜日 休日

十四日 幹部会議

午前七時半より

十九日 F・M・S

午前七時半より

二十一日 幹部会議

午前七時半より

二十三日 勤労感謝の日 休日

二十五日 中堅幹部会議

午前七時半より

二十六日 Y・M・S

午前七時半より

二十七日 家族忘年会(餅付大会)

べんてん会館にて

午前十一時半
午後二時半迄

二十八日 経営会議

午前七時半より

我が家の事件簿 月々、日々の中で

若さは未熟さに通じる。

その未熟さの中に、これからの成長や発展への無限の可能性を感じる思いがする。その若さの素晴らしさに匹敵するどれ程のものを、自分が身につけているかそれが問題だ。孫の成長を楽しみに、自分の年老いた日に想いをせ乍ら、父と話をしたのはいつの日だったか？病に倒れ、ベットの父を見ていると、人間にとって何が大切か思ひ知やされる。

苦痛の時、人は敏感になり、苦痛の時、人は素直になる。

「聞こえますか？聞こえたら右手を上げて下さい」看護婦の呼びかけに、まるで小学生の様な素直さで右手を上げる。そこには肩書きも名誉もない裸の人間が横たわっているだけ。

あなたのあたたかい手を握る事もメガネの奥の優しいまな差しも、笑い声も、もう二度と……

あの日の事覚えています。体の弱かった私に「病気に負けたいけん。病気に勝たんきゃ元氣は出てこんよ」何度も繰り返す父のつぶやきを聞きながら、子供心に「元氣になりたい」と思った。今度は

私が父に、病気に負けたいけんよ」早く元氣になって家に帰ろうと……眠るように去ってしまった父。私には父はもういない。

坂口 ゆう子



〈クイズコーナー〉

あるパン工場で、パンをつくるのに、Aの機械2台とBの機械3台を使用したら1時間で680個つくれた。この時、Aの機械、Bの機械の1時間あたりの生産個数はそれぞれいくつになるでしょう

締切11月15日抽選にて3名様に賞品を差し上げます。どんどん御応募下さい。

●編集後記

今まであざやかだった緑の葉もすっかりブラウン色に変わり、にぎやかだった街並もだんだん寒々としてきました。天気の良い昼間でも、お散歩していると「寒い」と感じさせます。朝晩ぐっと冷え込み、布団から出るのにとっても勇気がいられます。

でも今が一番いい季節。山や公園は、もみじなど紅葉でいっぱいでしょう。

皆さん、お休みなどを利用して一日のんびりと紅葉を見に行ってみてはいかがですか。

さて、先日編集会議を開き、一味違った「波紋」を作ろうと話合いました。皆さんのご意見、ご希望もお待ちしておりますので、宜しく御願ひ致します。

宝田 かおる

編集発行者
森松株式会社
発行責任者
橋本正子
昭和63年11月1日
第41号